

ヒノキ科 ヒノキ属

サワラ (榎)

Chamaecyparis pisifera (Siebold et Zucc.) Endl.

自生環境

山林、神社 など

原産地

日本在来

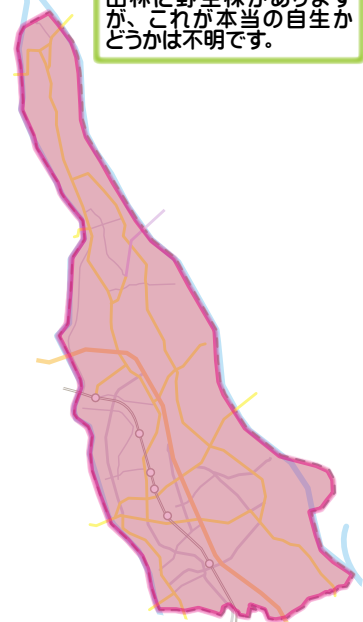
生育を脅かす要因

(今のところ特になし)

在来種ですが、市内では大半が植栽、またはそこからの野生化株と考えられます。真の自生があるかどうか不明ですが、現時点では生態系の観点からの保護は特に必要ありません。

市内の分布状況

山林に野生株がありますが、これが本当の自生かどうかは不明です。



特徴

- ☆ 日本固有の樹種で、もともと山地に自生していたものですが、スギやヒノキと同様に材木を採るために広く植林されています。ただ名前の由来がサワラギ（さわらかな木、さわらかはやわらかいの意味）であるのとおり、材木がやわらかくて傷つきやすいため、スギやヒノキほどの人気はありません。
- ☆ 雌雄同株ですが、雄花と雌花が別々に咲きます。雄花は空気中に大量の花粉をまき散らすため、スギやヒノキほどではないものの花粉症の原因になります。雌花は受粉液を出し、雄花からの花粉がつくと、液ごと吸いこんで受粉します。秋、直径7mmほどの「球果」が枝いっぱいにつきますが、これは松かさのようなもので、果実ではありません。
- ☆ 庭木や生垣用にいろいろな園芸品種があります。代表的なのは、枝葉が長く糸状に垂れさがるヒヨクヒバ（イトヒバ）です。

サワラはX、ヒノキはY

ヒノキとサワラはよく似ていますが、枝葉を裏返した時の白い部分の模様から容易に判別できます。この白い部分は、正式には気孔線（気孔帯）と言い、気孔（空気の入出力、水の蒸散に関する器官）が集まったものです。この部分が、サワラはX、ヒノキはYのかたちをしています。この見分け方は園芸品種でも有効です。ヒノキ、サワラどちらの園芸品種が知りたいときも気孔線で判断できます。

雄花



大量の花粉を空中に飛ばす

雌花



受粉液で花粉をキャッチ



きゅうか球果

球果は熟すとすき間ができてそこから小さな種子がこぼれる



樹皮は紙のように薄くはがれる



てっぺんはとがる

樹形は円錐形



枝葉の先が長く垂れさがる

園芸品種 ヒヨクヒバ（イトヒバ）

Copyright © 2021 Wabi-chan NERU. All rights reserved.



千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBjegnWATWd-UZsNzCA>

